Peppolが輝かせる「主役」たち ～PROAXIV、海外との取引での挑戦～

2026年1月８日、デジタル庁は、株式会社PROAXIV（東京都中央区）阪本綾社長との間で、クロスボーダー取引におけるデジタルインボイスでの請求の実施について、意見交換を行いました。

阪本社長には、2025年10月、あすは税理士法人との間の取引におけるデジタルインボイスの利用について話を伺いました。その際、「デジタルツールの利用を前提とした業務プロセスをイチから考えることができる」との話があり、今回のクロスボーダー取引におけるデジタルインボイスの利用もその一環となります。

株式会社PROAXIV　阪本社長（写真右）

そのうえで、「デジタルインボイスで請求を行うことは目的ではない。デジタルインボイスを利用するチャンスが少しでも増えるよう、まずはビジネス（取引）を拡大していきたい」といった、本来、事業者の方が意識しなければならないデジタルインボイスとの「距離感」についても言及がありました。

阪本社長からは、前回同様、デジタルインボイスの利用について「特別なことをしているという意識はない」との説明がありました。さらに、「海外の複数の取引先に対し、既にデジタルインボイスで請求を行っている」との現状の報告があり、国内外の取引に係る請求についてデジタルインボイスの利用が定着している様子がうかがえました。

PROAXIVの取引先の事業者の皆様